

全魔検 6000 直前予想問題・解答・解説

大問 1. 知識問題：魔法学史

次の文章を読み、[] 内に入る正しい語句を記号から選んで答えよ。

神庭記によると、世界初の魔法使いは [A] の一人、[B] であった。[B] は初め、ほかの二人と同じように昼神と共に [C] から知識を汲みだしていた。

しかし、異界ではなくこの世界への深い関心を持っていた [B] は [D] の眷属となり、魔法使いの能力を授かった。[D] の眷属であることから予想できるように、魔法使いは初め [E] 魔法のみを使っていた。

- ①A：魔族、B：ポルソロ、C：知恵の井戸、D：夜神、E：夜
- ②A：はじめの3人、B：トコリナ、C：知恵の井戸、D：暗黒神、E：闇
- ③A：3人の賢者、B：トント、C：知恵の泉、D：暗黒神、E：闇
- ④A：はじめの3人、B：ポルソロ、C：知恵の泉、D：夜神、E：夜

解答：④

解説：

神庭記から世界初の魔法使いに関する問題。神庭記によると、初めに昼神と出会った人々をはじめの3人という。彼らはポルソロ、トコリナ、トントという名前であった。

昼神は何も知識を持たない3人のために、神の庭にある知恵の泉から知識を汲みだすことにした。はじめの3人は知恵の泉から、言葉、暦、芋などの食料についての知識を得た。

はじめの3人の中で魔法使いとなったのは、ポルソロである。彼は昼神に「ほかの世界の知識ではなく、この世界について知りたい」と願い、夜神の下に導かれた。夜神はポルソロを自らの眷属とし、魔法使いの力を与えた。夜神から魔法を与えられたので、ポルソロは夜魔法使いとなった。

「魔法使いといえば夜魔法」という時代は100年ほど続いたが、次第にほかの領域に才能を示す魔法使いが現れ始めた。昼夜戦争の頃までには五行魔法と花、昼魔法を使う魔法使いが出そろっていた。神々が自らの眷属たる魔法使いを取り合った事が昼夜戦争の始まりだといわれている。

大問 2. 知識問題：魔法学理論

次の文章は魔法学の三大原則について書かれている。[] 内に当てはまる語句を記述せよ。

魔法学の三大原則とは、すべての魔法使いが遵守すべき魔法の運用ルールである。第1原則は [A] という。これは魔法と [B] の研究や解釈に関する協定である。この協定がある

限り、自然界に発生する現象・事象について、両学問はそれぞれに独立した視座から研究し、解釈できる。しかし、それぞれの研究・解釈についても一方の視座から説明することはできない。

[A] が成立した理由は、魔法学的研究を [B] 的に説明する、またはその逆を行うと、それぞれの学問的発展が阻害され紛争を招くおそれがあるからである。

第2原則は [C] という。[D] たる魔法使いが使用する魔法と、神々の操る [E] は全く別の原理によって成り立つ。魔法と [E] の違いを証明した魔法学研究としては、[F] の境界内神魔比較実験が有名である。

第3原則は、[G] という。[G] は効果<引き出し仮説と人神比較論を元に構築された、魔法の根幹についての理論である。[G] は 5000 年代に [H] が発表し、この功績をもって [H] は大魔導士となった。

解答

A：魔科分離の法則、B：科学、C：人神分離の原則、D：人間（人でも可）、E：神術、F：コズモネアズサ、G：魔法アクセス論、H：フライペッパー

解説

魔法三原則についての基本問題。この文章の内容は、□内以外の部分もよく読んでおこう。

大問3. 文章読解

次の文章は魔法使い作家が書いた小説の一部である。この物語文を読解し、問題に答えよ。

「あなたには、この本を与える。卒業までに半分を、もう半分は一生かけて読み解きなさい」
校長から手渡された本は、白い装丁の小さな本だった。1, 2 ページめくると、異常に気が付いた。

「これは泉書ですか？」 * 1

校長は「当たり前でしょ」と答えたが、全然当たり前ではない！だって、ここは魔法学校なのだから。

『ある日、メリーの元に 1 通の手紙が届きました。家族たちは子どものメリーにどうして手紙が届くのか、いぶかしがっています。

しかし、メリーには分かっていました。「これは魔法の世界への招待状なのだ」と。 * 2』

校長に渡された本を、私は三日三晩のあいだ寝ずに読み続けた。いくら読んでも、著者の

気持ちも、裏側も見えてこない。なんて*3！

1. *1の発言をした登場人物の名前と、このときの気持ちを選択肢から答えよ。

名前

A：マリー、B：メリー、C：リリー、D：エリー

気持ち

E：魔法学校に入学したのに泉書を渡されて驚いた

F：せっかく魔法学校に入学したのに泉書を渡されてがっかりした

G：校長が自分をからかっていると思った

H：校長は自分が魔法書と泉書の区別がつかないと思っているのか、と憤った

2. *2について、メリーの考えに対する正しい解釈を選べ。

A：メリーは手紙が魔法の世界への招待状だと確信しているが、なぜかは説明されていない

B：メリーは自分が魔法使いの子孫だと知っているため、手紙が魔法の世界への招待状だと確信していた。

C：メリーはいつもありもしない事を夢想する癖がある。彼女にとって手紙はすべて、魔法の世界への招待状であった。

D：メリーは子どもなので、手紙が自分あてに届くはずがないと思っている。

3. *3の部分に入る正しい文章を選べ。

A：楽しいんだろう

B：素晴らしいんだろう

C：あと3日しかない！急がなければ

D：暖かい南海の砂浜に行きたい

解答

1. 名前：D、気持ち：G

2. A

3. B

解説

『』内の文章だけ泉書の内容であることに注意して、読解アプローチを使い分けよう。

問1は登場人物の情報と気持ちを答える、魔法文の問題である。場面移入法を用いて応えよう。科学的アプローチの場合、答えにたどり着けないので注意。

問2は泉書文の読解問題である。科学的アプローチで解答しよう。この物語文は有名ドラマの原作本なので、すでに読んだことがある者はネタバレを踏まえて誤答する恐れがある。科学的アプローチでは、文章に書いてある内容からのみ判断するように気を付けよう。

問3は魔法文の穴埋め問題。こちらも場面移入法を用いる。文裏読解法を用いるとDと誤答してしまうので使い分けに注意！

大問4. 総合問題

Aさんは魔法使いの母親と非魔法人の父親を持つ。40歳までは魔法使いの才能に気づかず暮らしていたが、冬場の静電気の量が並大抵でない事から雷魔法使いであることに気が付いた。

Aさんは40歳にして魔法学校に入学するかどうかを検討するために、運命論的寿命を計測することにした。健康診断の結果、Aさんの魔法親和性は5600、魔法浸食度はAだった。Aさんは魔境大陸出身で出生地のM濃度は50%であった。Aさんは一度も引っ越しせず、出生地で40歳まで生活していた。

1. Aさんの運命論的寿命を求めよ。
2. Aさんが40歳まで魔法使いの才能に気が付かなかった理由として、適当でないものを答えよ。

イ：Aさんは非常におっとりした性格だった

ロ：Aさんは学生時代に文系科学を専攻しており、雷魔法に勉強を邪魔されることが無かった

ハ：Aさんはテレビンユ関係の技術者であり、電気を使用する機械を日常的に修理していた

ニ：Aさんは母親が魔法使いであることを知らされておらず、出生時の魔法親和性診断も受けていなかった

解答

1. 320歳

2. ハ

解説

問1は運命論的寿命を答える問題。易学魔法を使用するのが最も簡単な解法である。現在の魔法親和性の数値と出生地のM濃度を易学魔法陣に代入する。

数学的アプローチでも解答できるが、計算が煩雑になるためおすすめしない。

問2は雷魔法の特性に関する知識問題。

雷魔法は魔法使いの気性や感情に反応しやすいため、気性の荒い人物には顕現しやすい。逆におっとりした性格の場合は、普通に生活している分には全く魔法の存在を感じない人もいる。

非魔法人だと思っていた人物が雷魔法使いだと気づく機会として最も挙げられるのが、算数や数学の授業である。科学的数式を書こうとしても直感的に魔法学的コードを書いてしまい、誤答することが非常に多い。数学が苦手なんだと思い込み、ただの文系人間として生

活している潜在魔法使いは意外と多いのである。

理系科学者の場合、事件がことごとく失敗することで雷魔法使いを自覚することが多い。

雷魔法は普段の生活での顕現度合いに個人差が大きく、出生時に魔法使いだと判明しなければ魔法使いだと気が付かないことがある。

大問5. 倫理問題

あなたは非魔法人の知人から、「最近気分がすぐれない」と相談を受けた。知人の妻は魔科学協働運営の病院に勤める医学系看護師で、体傷療法による解呪後の患者のケアを担当することもある。知人は「妻を介して自分が呪いにかかってしまったのではないかと懸念しているようだ。

1. 次の選択肢から、魔法使いとして適切な助言でないものをすべて選べ

A:「体傷療法は絶対に解呪できる魔法なので、あなたの不調はうつ病だと思う」

B:「あなたの不調が魔法学的なものか科学的なものは、私には判断できない。念のため、魔科学協働運営の病院に受診したほうがいい」

C:「奥さんを介してかは判断できないが、呪いにかかっているおそれはある。かかりつけの解呪師に相談してみてはどうか？」

D:「医学系看護師が患者から呪いをもらう事はありません。職業差別は慎みたまえ」

解答

A、D

解説

A、Dは体傷療法の効果を絶対と言い切っているため、適切な助言とは言えない。解呪には必ず失敗のリスクがある。また、知人の不調を科学的疾病と言い切るのも魔科分離の法則に抵触する恐れがある。

Bは魔科分離の法則にのっとり判断を保留し、どちらの可能性にも対応できる治療機関を紹介している。適切な助言である。

Cは魔法学的観点からリスクを述べ、解呪師に相談するように勧めている。科学的治療機関を紹介するのは魔法使いとして必須の対応ではないため、適切な助言でないとは言えない。